食料・農業・農村政策審議会企画部会（第124回）
議事概要

１．日時：令和８年３月13日（金）14:00～15:40
２．場所：農林水産省第２特別会議室
３．出席委員：
　　中嶋部会長、秋元委員、井岡委員、稲垣（公）委員、稲垣（照）委員、大吉委員、小倉委員、小針委員、南島委員、堀内委員、宮島委員（以上、対面出席）、赤松委員、神農委員、竹下委員、徳本委員、福田委員、堀切委員（以上オンライン参加）
　　（磯崎委員、齋藤委員、内藤委員、八木委員は欠席）
４．議題：令和７年度食料・農業・農村白書概要（案）
５．主な発言内容：

（井岡委員）
・国の施策について白書で緻密に分析されていることは評価する。一方、一般の消費者には届いていないように感じている。一昨年改正された食料・農業・農村基本法、また、食料システム法や食料供給困難事態対策法等も消費者の日々の行動変容を求めるものであるが、消費者に情報が伝わってきていないと感じている。この白書は良い取組であるので、用語検索、音声解説、ホームページ等で情報が見つかりやすい状態にする、SNSで情報発信する等が求められる。
・米が適正価格に移行していくかについて、消費者は大きな関心を持っており、分かりやすい記載となることを期待する。
・女性活躍について、強力に推進をお願いしたい。女性は、農業において多様な役割を持っているが、現場で負担がある。家事・出産・育児等との両立などの負担軽減支援や慣習の見直し等の意識や環境の変化が進まなければ農業の担い手を増やしていくことは難しいのではないか。
・フェアプライスプロジェクトは素晴らしい取組なので続けてほしい。

（小倉委員）
・米を特集で取り上げるのは良いこと。ただ、直近で在庫が積みあがってきて、暴落懸念が顕在化しているなかで、白書は不足への対処を中心に取り上げており、今後の価格暴落懸念への対策が十分書かれていない。もう少し、防止への対策について説明があると生産者が安心するのではないか。
・トピックスの昭和100年は、担い手、食の変化（特に食肉等畜産需要増）、法制度の３軸で整理した方がすっきりとするのではないか。その上で最後のメッセージとして、この10年が節目となって、大きな転換点を迎えて、今後、アジア全域が日本と同じような道をたどっていくなどの将来の見通しを書いてはどうか。
・P.18では、グラフになぜ牛肉しか取り上げていないのか。
・P.19では、肥料について、国内の肥料供給安定化対策を打ち出したことについて、もう少しフォローしてはどうか。
・P.37の海外展開のところでは、食品企業の海外展開についても含めてあるのは良いと考える。現在日本の食産業全体で15～20%程度の海外展開率になっているところ、大手各社を中心には海外展開を加速させることを目指しており、今後５年で50%に伸ばしていくような動きとなると思われる。
・P.49の多面的機能のところでは、生物多様性に関する取組も書いてはどうか。

・第５章の気候変動の箇所では、気候変動の影響に関する記述が欠けている。今年は特に夏場が過去最高を更新する暑さであり、気候変動の影響とその緩和について取り上げる方が良い。例えば、P.60の自然災害の箇所に書くのはどうか。

（堀切委員）
・全体の構成は年々良くなっている。俯瞰図については、色分けを４象限に区分しているが、色分けが何を意味しているのか分かるよう、例えば左上が「食料」といった表記をした方が良い。
・特集では、米の安定供給は関心が高いところだが、一番知りたいのは消費者が買う米の適正価格があるのかということ。国民消費者は米の価格について不信感を持っている。最近耳にする3,500～3,800円という根拠が分からない。以前の2,000円は何だったのかとなる。農業者が生産を続けられないような価格だったとしたら、それ自体が問題ということ。輸入米の増加に関して、MA米以外に、関税を払っても国産の米より安く、米を輸入する業者がいたことが十分に書かれていない。
・トピックスでは、昭和100年については非常に良いが、最後に未来に繋げていけるようと書いてあり、それは、地域計画の話につながると思うので、トピックス１と２の順序は逆にしてもよいのではないか。
・第２章では、現場では外国人労働者が多いがそのことが書かれていない。人口が減る中で外国人農業者をどう考えているかを書いておくべき。
・第３章では、食品産業で中小零細企業がいきなり海外のマーケットを求めてといっても、貿易実務や現地の規制、宗教問題等があり、どこか１か所で解決できるようなセクションが求められる。サポート体制について触れるとよい。
・第４章の取引の適正化では、中小零細企業に対する優先的地位は厳然としてある。自動車産業や機械産業でも金型の問題があるが、（食品の取引においても）公取委と連携して下請法のような罰則規定があっても良いのではないか。

（稲垣（公）委員）
・地域計画に代表される土地利用型の農業をどうするかが最大の課題と考えるが、そのことが（読者に）伝わりにくい。
・特にP.８では、将来の受け手が約７割とあるが、ほぼ今の状況が地域計画に書かれているだけで、地域の将来の計画は描かれていないのでは。
・P.25では、2024年の農業産出額が10.8兆円とあるが、物価や米の価格が上がっているだけである。当社で確認したところ実質ベースでは8.6兆円となり、（基準年である2020年から）むしろ減っている。生産基盤が弱っていることを明確に書くべき。
・昭和100年では、記載が農業政策に偏っており、食べる側のことがあまり書かれていない。政策としては農業の課題が多いものの、この100年間で日本人の食が豊かになった、安く多様なものを食べられるようになったことを明記してはどうか。

（宮島委員）
・米の特集は多くの人が見るので誰が見ても分かるようしっかり書き込んだ方が良い。P.２の最後の３行を読んでも読者は米の価格について何が起こったのか分からないのでは。一般の人にも分かりやすい解説にしてほしい。
・白書は全体的に数字を出しているが、数字を出して「頑張っています」だけではダメ。例えば、P.27では、認定農業者に占める女性の割合が前年に比べ0.1%上昇と書いてあるが、これは良いことなのか悪いことなのか。様々な産業で女性の立場は近

年急速に変わっているのに0.1%の上昇で十分なのか。目標値と比べてどうなのか。他産業と比較してどうなのかを書くべき。外部から見て、農業はこれで満足なのかと思われる。
・P.41の合理的な費用の算出については、生産者と消費者の双方の目線が大切だが、米のコスト指標となるコストの取り方が生産者側に寄っているように感じる。生産者と消費者の双方にとって公正なデータを測って対応していくことが求められる。

（植杉情報分析室長）
・井岡委員からの指摘で、白書の広報については、昨年度はBUZZMAFFで白書を取り上げており、正しい情報を発信していきたい。
・女性の活躍については負担軽減の施策も充実してきており、男性・女性の意識も変わってきている。
・小倉委員の指摘で、米の価格暴落懸念については、コスト指標の作成についての進捗を書いているので目安になると考える。
・昭和100年について、３つに分けて整理することについては、一番変わったのは日本の農村だと思うので、フォーカスを絞りつつ、農村部分にも焦点を当て、稲垣委員から指摘のあった食生活のことも追記していきたい。
・牛肉以外や肥料の対策についても本文にしっかり書いていくこととしている。
・生物多様性や気候変動についてはP.46に書いており、本文案の確認の際にまた御確認いただきたい。
・堀切委員からの俯瞰図に係る指摘につき、更に分かりやすくしていく。
・輸入米が増えたことについて、あまり切実感が伝わってこないという意見につき、P.２に国内生産への影響に触れており、本文でも工夫したい。
・トピックスの掲載順について、政策として重要なのは地域計画であり、昭和100年はその振返りとの意見もあり、このままとさせていただきたい。
・外国人労働者については、資料の簡素化の観点から、概要には入れていないものの本文には記載している。
・海外展開のサポートや窓口への指摘について、P.37で認定品目団体や輸出支援プラットフォームなどを書いてあり、国内外に拠点を持つJETROと連携しながら輸出をサポートしている。このことは本文にも記載してまいりたい。
・稲垣（公）委員の指摘について、地域計画の最大の課題を農村政策とリンクさせて伝わるようにということと、農業産出額では注意深い表記が必要ということについて、工夫していくが、データはデータとして、過去のものと合わせて記載していきたい。
・食生活が変わったことについて、概要ではうまく表現できていないかもしれないが、給食のメニューの変遷や選択の幅が出たことを本文で記載していきたい。
・宮島委員からの、特集は誰もが見るから分かりやすいようにという意見は、是非そのようにして本文作成に当たりたい。
・女性の認定農業者については、他産業と比べてどうか、過去と比べてどうかについて記載し、文章は工夫していきたい。

（稲垣（照）委員）
・農地関係については、後日、書面で修文を出させていただく。
・P.27の農業支援サービス事業者について、現場ではまだまだ認識が薄い。経営者や経営体が脆弱になる中で、サービス事業者の育成と支援を強める必要がある。本文

では、農業支援サービス事業者の概要と農林水産省としてどのように支援していくかについて、実例を挙げて具体的に記載いただきたい。
・現場に近い市町村の職員のリソースが大変。過去の白書では職員数の変化について記載しているが、現場の職員はフィジカル、メンタル両面で大変で、市町村の農政課の定員があっても、実員は半分もいないといったこともある。政策を現場で支える（人的）リソースが大変であることも触れてほしい。

（赤松委員）
・トピックスはその時々のことなので、この内容で良いと思う。ただ、昭和100年の年表について、関連する省庁（消費者庁、厚生労働省等）の施策も入れるのかどうか、その線引きをした方が良いと思う。

（竹下委員）
・米の特集は消費者から見ても非常に興味・関心があり、白書に興味を持つきっかけとなるようなテーマが選定されていて良い。
・消費者としては、なぜ価格が高騰したのか気になるため、需要と供給のバランスが把握できていなかったことを示した上で、調査方法を改める旨が記載されているのは期待が持てる。一方で、P.５で調査手法を変えることが記載されているが、ふるい目幅を変更しただけでそこまで数値が変わるものなのか。読んだ方が疑問に感じそうなところは注記等の補足をすることで、分かりやすくする必要。また、消費者としては、今後の米価格がどうなるのか、関税が課せられた輸入米が入ってくる中で、日本産米がなぜ高止まりしているのか、言及してもらえると読み物としてより深くなる。
・トピックスの昭和100年について、戦後のGHQ占領下における減反政策等の影響もあり、今につながっている。P.９にはどうして米の生産が減っていったのかをもう少し深掘りして記載してみてはどうか。歴史を振り返るきっかけになる。

（徳本委員）
・地域計画がコミットできるかが全て。しかしながら、土地の所有権が細分化して、作り手の感情もあいまって、話がまとまらない。離農が進んでいく中で、地域の担い手に農地が流動していかないと、米の生産力が５～10年で急速に落ち込む。このような中で、大規模化等を行う必要があることは分かっているが、権利の細分化等もあり難しい。トピックスで昭和100年の振返りも白書でしているが、農地解放の弊害が出ているのでは。白書なので踏み込む必要はないが、地域計画が３～５年後もまとまらないという話をしながら、生産力がどんどん落ちる。これへの優先度、危機感が伝わるといい。

（秋元委員）
・米問題の背景は流通の多様化。流通形態が複数に及んでいるため、流通実態を把握しにくい。白書の中で米の流通構造に触れられていない。流通や需要の把握をどうするか、対策を記述する部分で触れた方が良いのでは。
・気候変動については、毎月のように生産者から声が届いている。例えば山形県のさくらんぼは一昨年・昨年と不作が続くなど、様々な地域で影響が出ているが、皆適応できるように頑張っている。みどり戦略の中で環境負荷低減の文脈で記載されているが、産地で適応しようとしている事例や現場での対策等を記載してほしい。

・離農がここ数年で大きく進むことを懸念しており、非常に危機感を感じている。地域計画は、重要だが進んでいない。地域計画を作っていく中で担い手の集約、経営統合、企業参入等も起きているので、農業のあり方が変わっていることを紹介いただきたい。また、多様な人材の確保も重要。女性農業者に触れていただいているが、スマート農業の活用や、大きい面積を少ない人数で回し、週休２日取れる法人の事例等があると聞いている。女性やその他の者が農業に関心をもってもらえるような労働環境となっている事例も紹介いただければと思う。

（大吉委員）
・米の特集について、生産費（全国平均値）は60キロ当たり１万６千円程度だが、米の価格が高過ぎても大変になる。安定した価格形成となるように、どれくらいコストがかかっているか、コスト指標も示すといい。再生産につなげるため、フェアプライスプロジェクトでも伝えてもらえたら良い。
・南九州では酷暑、台風災害に見舞われる。酷暑対策について触れてほしい。

（小針委員）
・米の特集は消費者から見ても分かりやすくしてほしい。P.６の始めの文章では、いきなり「米穀安定供給確保支援機構」と出てくるが、消費者にはわからないと思う。何のためにどのようなことをしているのかを分かりやすく記載してほしい。
・　P.２について、相対取引価格が2024年、2025年と上がったと記載されているが、それぞれの要因は異なるはず。「今般の価格高騰の要因」という（ひとまとめにした）記載ぶりは見直した方が良い。
・P.８の地域計画の表について、将来の受け手が位置付けられていない農地面積の割合に地域差があることが課題であるため、そこを強調した方が良い。
・P.25では、農業経営の動向について所得が上がったことのみ記載しており、要因が書かれていない。
・2025年センサスで着目すべきは、基幹的農業従事者の平均年齢が少し下がったこと。P.26では、2025年センサスで見えている農業構造の変化について、書きぶりを工夫してはどうか。
・P.41では、価格形成の仕組みやシステム全体で価格について考えようということについて伝わるようにした方が良い。

（堀内委員）
・P.６では、酒米の記載があるが、事業者がなぜ酒造好適米を必要とするか、なぜ生産が減少したかを記載した方が良いのではないか。これらに支援措置を出しているが、「なぜ」があった方が分かりやすい。
・「日本の伝統的な酒造り」がユネスコ無形文化遺産として登録されたことを紹介してもらえたらと思う。
・P.27の女性の活躍について、女性役員が増えるのはいいが、担い手をサポートしてくれる女性が必要。
・GLOBALG.A.P.について、10年ほど取り組んでいるが、オリンピックの調達基準等とするだけでなく、普段からそのような調達であってほしい。

（南島委員）

・有機部会に所属しているが、第５章の記載は有機部会の議論と比較すると、消費者理解が薄いとの印象。ただ、多面的機能の発揮に尽力していることを記載しているため、やむを得ない面もあると理解。本文作成の際に強調願いたい。国民に何を理解してほしいと考えるかが伝わるよう記載すると良い。
・トピックス１、２の性質があまりにも異なる。昭和100年は政府全体の取組であることから、名称を例えば「特別企画」としてはどうか。
・国民に向け、YouTube(BUZZ MAFF)やオーディブル等を活用し、少なくとも特集は音声で聴くことが可能となるような工夫をしてはいかがか。

（植杉情報分析室長）
・赤松委員からの他省庁の所掌について年表に入れるかどうかの意見については整理するが、白書の理解を進めるための参考資料であることを御理解いただきたい。
・竹下委員の指摘のふるい目幅変更や、なぜ米が高くなるのかについて分かりやすくなるように記載し、米の生産が減っていった状況については歴史の面でも書くように対応する。
・徳本委員の地域計画の危機感については、危機感が伝わるよう課題を書いていきたい。
・稲垣（照）委員からの農業支援サービス事業者のことは本文に入れていきたい。行政を支えるリソースについては、現場が大変なのはそのとおりのため、現場を支えるリソースが大切と記載したい。
・秋元委員からも多数の御意見について、この場で全ては回答できないが、女性の農業参入の事例については、大規模かつ女性が参入している事例を本文で作成しているので、次回御覧いただきたい。
・大吉委員からのコスト指標のことについては、今月公表された米穀機構の図表も示しながら相談してまいりたい。酷暑の対策についても、P.46に書いているが、昨年度に引き続き今年度も書いてまいりたい。
・小針委員からは全体的に分かりやすく、また2025年産の米の価格が高い状況が分かるようにという指摘について、本文で対応していく。
・堀内委員から指摘のあった酒米や日本酒、GLOBALG.A.P.の記載は、それぞれ可能な範囲で対応していく。GLOBALG.A.P.について、普段から必要であってほしいというのは、まさにそのとおりであり、省庁の食堂においてGAP認証が基準の一つとなったこともあり、このようなことから広がっていけば良いと感じている。
・南島委員からは有機の関係で消費者理解の記述が薄いという指摘について、消費者との有機の関わりについて、オーガニックビレッジや有機農業の日の取組等を本文で書きたい。トピックスのタイトルのワーディングについては、林業白書や水産白書の関係もあるので検討したい。
・YouTubeやオーディブルについて、既にPodcastに投稿しており、白書の全文ではなく、対話形式の音声白書というものがある。井岡委員からも冒頭発言があったが、白書の公表後に発信していくよう、進めていきたい。

（中澤危機管理・政策立案総括審議官）
・国民に分かりやすい白書をということで横串のコメントいただいた。国民が何を求めているか、どういったことを知ってもらいたいか分かりやすい白書として作成してまいりたい。

以　上